

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町名	小松市
所属名	長寿介護課
担当者名	角地 孝洋

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				令和元年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	○小松市の調査によると市民の地域活動への参加意識や地域貢献への意欲はかなり高い。 ○今後、高齢者の更なる増加と生産年齢人口の減少などにより、ますます人材の確保が難しくなり、地域主体の介護予防が果たす役割は大きくなる。 ○専門職による支援は手厚くなりすぎる傾向にあり、非専門職である地域主体の支援はむしろ本人のできる部分を生かし自立支援につながる。さらに、支援者である地域住民にとっても介護予防につながると思われ、推進していく必要がある。	セルフケアの推進	○はつらつシニア支援事業の推進【地域サポートクラブ(訪問型サービスB)の推進】 要介護に至る前の要支援者・虚弱高齢者の多様な生活ニーズを地域の方で支えることで、できる限り自立した生活を継続していけるようにするもの。また、その担い手自身が、そのような活動を自らの介護予防とするもの。 (目標)地域サポートクラブ(利用回数/利用人数/サポーター人数) 平成30年度 2640回/55人/140人 令和元年度 3000回/60人/145人 令和2年度 3250回/65人/150人	○生活・介護支援サポーター養成講座の開催 ○地区社協に利用・養成の相談窓口をモデル的に設置。地域での会員の拡充とマッチング機能の強化を図った。 ○地域ケア推進会議の住民主体検討部会で、利用者及びサポーターにアンケート調査を実施。利用者のニーズ、サポーターが現在の内容以外に行える支援内容について把握。調査結果から、今後必要な支援として、「院内介助や入院中のサポート」「除雪ボランティア」「地域サポートクラブ+(プラス)(非日常的家事支援)」「外出支援」の4分野と整理した。除雪ボランティアについては、地域サポートクラブとは別に派遣制度を創設。  (結果)地域サポートクラブ(利用回数/利用人数/サポーター人数) 平成30年度 1837回/51人/155人 令和元年度 2349回/67人/186人	◎	○協力会員もさることながら利用会員も伸び悩んでおり、今後も、周知を強化していく必要がある。 ○モデル地区に設置した利用・養成の相談窓口が効果をあげており、他の地区にも広げていくことを検討していく。身近な窓口が増えることで利用者及びサポーターの増加につなげたい。 ○非日常的家事支援を担う「地域サポートクラブ+」の創設は、検討段階ではあるが、院内介助や入院中のサポートなど対応できそうなものから実施を目指す。外出支援については、市の運営補助、民間や社会福祉法人の取り組みの把握、社会福祉協議会の福祉車両の活用などを行っていく。
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	○小松市の調査によると市民の地域活動への参加意識や地域貢献への意欲はかなり高い。 ○今後、高齢者の更なる増加と生産年齢人口の減少などにより、ますます人材の確保が難しくなり、地域主体の介護予防が果たす役割は大きくなる。 ○デイサービス等の介護保険サービスは社会参加にはなるものの、住み慣れた地域とのつながりが希薄になりやすく、地域に身近な場所でのサロンが必要である。 ○そのようなサロンで地域とのつながりを持つことは、サロン実施日以外での社会参加も増加させ、より介護予防につながると思われる。また、支援者である地域住民にとっても介護予防につながると思われ、推進していく必要がある。	セルフケアの推進	○はつらつシニア支援事業の推進【ミニデイ(通所型サービスB)の推進】 住み慣れた身近な地域で、閉じこもりがちな虚弱高齢者の社会参加を促すことで介護予防につなげるもの。また、その担い手自身が、そのような活動を自らの介護予防とするもの。 (目標)ミニデイ(整備か所) 平成30年度 25か所 令和元年度 30か所 令和2年度 35か所	○課題について、はつらつシニア支援事業検討部会で情報共有・検討 ○ミニデイ開設講座の実施、及び過去のミニデイ開設講座受講者への開設までのフォローアップ及び追跡調査、健脚ボランティアへのミニデイ開設講座参加のお願い ○運営者研修 ○地域で開催されたミニデイの開設のための説明会への出席  (結果)ミニデイ(整備か所) 平成30年度 18か所 令和元年度 21か所	○	○興味のある方に対し、「ミニデイ開設講座」等を開催し、「どのようにしたらよいかわからない」「どのように開設すればよいかわからない」などの疑問解決に努めたが、地域の中での調整もあり、ミニデイの設置箇所が伸び悩んでいる。 ○地区社協、民生委員などへ設置の依頼をしているが、今後は町内会や老人会などにも対象を拡大していく必要がある。 ○ミニデイとしては実施しないものの、ミニデイ開設講座を受講後、そのノウハウを生かし、地域の居場所づくりとして、カフェを始めるところも見られた。ミニデイの普及自体が目的ではなく、多様な通いの場を増やすことが大切であるため、このような住民の取り組みにつながったことは評価できる。今後は住民が独自で設置する場も把握・支援してことも重要である。
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	○小松市では平成28年3月から総合事業を実施している。 ○地域ケア会議では「サービスの利用が自立につながっていない」等の課題が挙げられている。これは、サービスの利用により筋力等が改善しても、実際の生活行為に反映されていないと考えられた。 ○「短期集中予防サービス」は「生活行為の自立」を目指す、市独自の取り組みであり、その効果や方法については実施しながら検証・改善していく必要がある。	セルフケアの推進	○はつらつシニア支援事業の推進【短期集中予防サービス(訪問型・通所型サービスC)】 入院等による一時的な筋力低下等のみられる方を対象とし、単なる「筋力の向上」ではなく「生活の自立」を意識した訪問・通所併用サービスを行うもの。なお、ケアマネジメントについても多職種で行うもの。 (目標1)利用人数 平成30年度 35人 令和元年度 40人 令和2年度 45人 (目標2)改善者数(※維持者含む。概ね7割を目標) 平成30年度 25人 令和元年度 29人 令和2年度 32人	○退院カンファレンスに合わせたサービス担当者会議の実施 ○短期集中予防サービス用の独自様式のケアプランを使用 ○毎月、多職種で集まり(チーム員会議)、必要に応じてケアプランを修正 ○通所による筋力の向上と訪問による生活行為の自立支援 ○事業の開始・終了時に認定調査(医師の判断項目を除く)を行い、一次判定レベルでの評価を実施  (結果1) 平成30年度 20人 令和元年度 13人(※うち3人は事業継続中、2人は開始後すぐ中止) (結果2) 平成30年度 15人(75%) 令和元年度 6人(75%) (※終了者8人中)	△	○利用人数は目標値を大きく下回っており、昨年度と比較しても少ない。本事業は、開始の起点が入院であるため、入院先医療機関が各包括に連絡しなければ事業対象者の把握ができないため、利用者を増やすためには、医療機関への周知が必要であるが、今年度は十分な取り組みができなかったことが要因として考えられる。次年度は、医療機関へのチラシの作成・配布を実施していく。 ○改善者割合は増加しておらず、確認したところ、評価項目(介護認定一次判定準拠)の判定方法に疑義があるものが見られた。短期集中予防サービスのケアマネジメントを担うセンター職員も近年入れ替わりが多く、評価自体の信頼性の低下が考えられる。評価指標自体の見直しも視野に検討していく。

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				令和元年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	(現状) ○要介護認定者に係る更新認定の際の要介護度の変化をみると3割が重度化しており、国・県平均と比較しても高い割合となっている。 ○自立支援・介護予防・重度化防止の視点を自立・軽度者のみならず、要介護者への支援にも反映させたケアマネジメントスキルの向上が必要である。	自立(自律)・予防型サービスへの転換	○自立支援型・予防型のケアプランに向けた支援【介護予防ケアマネジメントマニュアルの作成・普及】 自立支援・重度化防止のためのケアプランを作成するためのマニュアルを多職種協働で作成するもの。 (目標)マニュアルの完成と普及 平成30年度 作成 令和元年度 市が包括に普及 令和2年度 包括がケアマネに普及	○地域包括ケア推進スキル向上研修で、高齢者総合相談センターの職員へ「ケアマネジメントかんじん帳」について説明し、介護予防ケアマネジメントのポイントを知りし。○居宅・包括連絡会の研修会で、センター職員が居宅介護支援事業所の介護支援専門員に対して、「ケアマネジメントかんじん帳」を用いて、介護予防ケアマネジメントのポイントを教えた。 ○「課題整理総括表」は、石川県独自の様式ではなく従来の様式が使いやすいとのことで、修正はしなかった。 ○令和元年10月から「介護予防ケアマネジメント確認票」を使用し、ケアプランチェックを行ったり、地域ケア個別プラン会議の際に資料として活用した。  (結果)マニュアルの完成と普及 平成30年度 ・介護予防ケアマネジメントマニュアル「ケアマネジメントかんじん帳」の完成 令和元年度 ・昨年度作成した「ケアマネジメントかんじん帳」を包括に普及 ・R2年度に予定していたケアマネへの普及も今年度実施	◎	○ケアマネジメントかんじん帳を周知し、活用することで、統一した介護予防ケアマネジメントの考え方を共有できた。 ○「課題整理総括表」については、従来の様式を継続して使用していく。 ○「地域ケア個別プラン会議」で引き続き「介護予防ケアマネジメント確認票」を活用し、自立支援型・予防型のケアプランを推進していく。
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	(現状) ○市ではこれまで個別事例の検討を包括が地域で行う「ミニ地域ケア会議」と市が行う「ケアプラン会議」で行ってきたが、「ケアプラン会議」については給付適正化の側面が強く、また、職員の異動により専門職種が保健師のみとなったことから、地域ケア会議としての機能を十分果たしているとはいえなかった。	自立(自律)・予防型サービスへの転換	○自立支援型・予防型のケアプランに向けた支援【多職種による地域ケア個別プラン会議の実施】 「ケアプラン会議」に外部の職種(リハ職、薬剤師)を追加し、「地域ケア個別プラン会議」として実施。「給付適正化機能」に加えてケアプランを起点とした「個別課題解決機能」「ネットワーク構築機能」「地域課題発見機能」を強化するもの。  (目標1) 平成30年度 310件 令和元年度 320件 令和2年度 330件 (目標2) ケアプラン会議への多職種参加	○サービス開始前にプラン会議を実施していたが、迅速にサービスを開始できるように、10月以降はサービス開始から約2か月後に実施することにした。(10月、11月は休止、12月から再開。) ○10月以降は「生活援助の訪問回数が多いケアプラン」や「福祉用具貸与計画」、「給付限度額を超えたケアプラン」等についても検討し、給付適正化を図ることとした。「生活援助の訪問回数が多いケアプラン」については協議の依頼があった際に検討、また、「給付限度額を超えたケアプラン」については、市から指定したプランを対象とした。実際に今年度検討できたのは「福祉用具貸与計画」のみであった。 ○「地域ケア個別プラン会議」の結果から地域課題の把握をするために、ケースの蓄積を実施。  (結果1)地域ケア個別プラン会議の実施 平成30年度 285件 令和元年度 161件 (結果2)ケアプラン会議への多職種参加 平成30年度 ・OT、PT、STのいずれかと薬剤師が毎回出席する体制が構築された。 令和元年度 ・平成31年1月から参加していたリハ職、薬剤師が、引き続き「地域ケア個別プラン会議」に参加。 ・8月から、フレイル予防機能強化型センターの理学療法士が参加。	△	○10月から実施方法を変更し、10月・11月の開催がなかったため、ケアプラン会議で確認するケアプラン数が計画を下回った。 ○「地域ケア個別プラン会議」に多職種が参加したことで、多角的な視点でケアマネジメントの確認をすることができた。 ○サービス開始前の実施をやめたため、迅速にサービスを開始できるようになり、利用者のメリットになったと考えられる。 ○サービス開始2か月時点で開催することで、プラン作成者が利用者の状況を把握できており、会議参加者が利用者の状況をより具体的にイメージできるようになった。また、2か月間の支援の進捗状況も併せて確認することで、支援内容・今後の計画が妥当か検討できたことがよかった。残りの期間で改善・工夫できる点も検討でき、プランに対する意見や助言もより具体的なものになった。 ○「地域ケア個別プラン会議」の結果から地域課題を把握するために、ケースの蓄積を行ったが、分析までできなかったため、今後分析・考察していく必要がある。
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	(現状) ○小松市では「地域ケア会議」により地域の課題を把握・検討している。 ○「地域ケア会議」の一つである「地域ケア推進会議」では地域包括ケアシステムの要素毎に課題がストックされており、その中には「自立支援・介護予防・重度化防止」に関わるものも多い。 ○それらの地域課題に対して、行政主体で施策化するのではなく、多職種で検討するプロセスを重視し、地域の実情にあった施策を効果的かつ効果的に作っていく必要がある。	地域課題の把握と課題解決に係るプロセスの充実	○地域ケア会議の実施 「ミニ地域ケア会議」「地域ケア個別プラン会議」で把握した地域課題を「地域ケア推進会議」で検討し、新たな施策につなげるもの。  (目標1)ミニ地域ケア会議の開催 平成30年度 65回 令和元年度 65回 令和2年度 65回 (目標2)地域ケア推進会議(ワーキング部会含む)の開催 平成30年度 8回 令和元年度 8回 令和2年度 8回 (目標3)事業の創出・改善のための検討	○これまで蓄積された地域課題を踏まえ、より自立支援・介護予防・重度化防止に資するよう支援サービスについて検討するため、「フレイル予防検討部会」、「はつらつシニア支援事業基準緩和型検討部会」、「はつらつシニア支援事業住民主体型検討部会」を設置し、それぞれ多職種で検討を行った。  (結果1)ミニ地域ケア会議の開催 平成30年度 67回 令和元年度 65回 (結果2)地域ケア推進会議(ワーキング部会含む)の開催 平成30年度 11回(なお、自立支援・介護予防・重度化防止に関する内容のものは8回) 令和元年度 8回 (結果3)事業の創出・改善のための検討 平成30年度 ・「介護予防ケアマネジメントマニュアル作成部会」の設置 ・「生活支援・介護予防体制整備推進部会」の設置 令和元年度 ・「フレイル予防検討部会」での検討:健康増進部門保健師等と市内リハビリ専門職との連携によるサロンへの訪問による保健指導の実施を具体化。 ・「はつらつシニア支援事業基準緩和型検討部会」での検討:給付実績から通所型サービスの利用と状態の変化を分析するためのデータベースシステムを作成。 ・「はつらつシニア支援事業住民主体型検討部会」での検討:「除雪ボ	◎	○実施回数はほぼ計画どおり。 ○各部会とも、多職種によるざっくりばらんな意見交換・検討から、新しい取り組みにつなげることができた。 ○今回設置した「フレイル予防検討部会」、「はつらつシニア支援事業基準緩和型検討部会」、「はつらつシニア支援事業住民主体型検討部会」は、自立支援・介護予防・重度化防止を考えていく上で重要であり、次年度も継続設置を検討。

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町名	小松市
所属名	長寿介護課
担当者名	角地 孝洋

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				令和元年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
小松市	②給付適正化	(現状) ○報酬改定等の制度改正が行われるなか、地域密着型サービス事業者の制度改正への理解が充分とはいえない。 ○制度改正や運営について、事業者が意見交換する機会が少ない。 ○介護支援専門員のケアマネジメントの質の向上を目的とした学習機会があまりない。	介護給付の適正化	【地域密着型サービス事業者等への実地指導、集団指導の実施】 介護給付に係る制度改正内容の理解を促進するため、事業者への指導等を行うもの。 (目標1)実地指導の実施 平成30年度 15事業所 令和元年度 15事業所 令和2年度 15事業所 ※介護予防と介護両方ある場合も1事業所として計算 (目標2)集団指導の実施 平成30年度 2回 令和元年度 2回 令和2年度 2回 【適正なケアマネジメントを行うための介護支援専門員等への勉強会の開催】 (目標3) 平成30年度 4回 令和元年度 4回 令和2年度 4回	○実地指導の実施 ○集団指導の実施 ○介護支援専門員への勉強会の実施  (結果1)実地指導の実施 平成30年度 15事業所 令和元年度 21事業所 ※介護予防と介護両方ある場合も1事業所として計算 (結果2)集団指導の実施 平成30年度 2回(居宅介護支援事業所) 令和元年度 2回(居宅介護支援事業所) (結果3)介護支援専門員への勉強会の実施 平成30年度 2回(居宅介護支援事業所) 令和元年度 2回(居宅介護支援事業所)	◎	○介護支援専門員の資質の向上を目的に、居宅・包括連絡会において、主任介護支援専門員が中心となって今後の連絡会を主催することを確認した。今後も引き続き、市と地域包括支援センター等と連携していきたい。 ○小規模多機能型や認知症グループホーム、通所系連絡会等、サービス種別毎に事業者が自主的な勉強会を開催し、市がバックアップする体制ができつつあるので、今後も制度改正への理解や事業者との意見交換の場になりたい。
小松市	②給付適正化	(現状) ○利用者とその家族がこれまで受けた介護サービスの利用状況や実績について関心がない場合がある。	介護給付の適正化	○介護給付費の通知(発送) 年3回、介護給付費通知を発行する。  (目標1) 平成30年度 年3回 令和元年度 年3回 令和2年度 年3回	○介護給付費の通知(発送)  (結果)介護給付費の通知 平成30年度 年3回送付(延べ13,808件) 令和元年度 年3回送付(延べ13,772件)	◎	○介護給付費の送付について、利用者やケアマネに制度の趣旨を理解してもらえるように、記載内容について、見直しの検討を行った。次年度は、記載内容について、システム改修を検討したい。